

若手教員と採用予定者の協働的な学びを構築するインターンシップ型教員養成・研修の試み  
～日常的・継続的教育実習プログラム「初等教育フィールドワーク研究」～

## 調査の概要

### ◆課題認識

- ・経験年数10年未満の教員が50%を占める。
- ・経験の浅い教員の指導力向上が課題になる。

### ◆調査研究の目的

- ・教員採用候補者の赴任に向けての指導力向上を図ること
- ・経験の浅い教員の指導力向上を図ること

### ◆調査研究校

- ・神奈川県横浜市
- ・小学校2校、

### ◆現状

- ・市内学校数：小学校150校、
- ・初任者：30%（平成29年4月現在）
- ・研修の特色：メンター制の一部導入

### ◆調査研究の方法

- ・初等教育FW研究を通して、採用候補者および経験の浅い教員の指導力向上をはかる

## 取組のポイント・成果

### ◆取組のポイント

#### ①ポイントA

- ・平成29年度成果を基に養成と研修を一体化できるモデル校を2校抽出した。
- ・SVが学生と経験の浅い教員の両方の支援を実施した。
- ・ST(学生)については、すべて教員採用試験合格者で構成した（スムーズな就任を目的とするため）。

#### ②ポイントB

- ・採用内定者のインターンとしての意義が見いだせた。
- ・採用後へのスムーズな連携（2名がそのまま赴任）が実施できた。

### ◆成果

- ・6名の採用内定者が授業観察及び授業実践，児童とのかかわりを持ち，4月赴任後へスムーズな連携ができた（うち2名はそのまま赴任した）。
- ・SVが拠点小学校の重点研究におけるアドバイザーになったり，授業実践の振り返りをしたりして若手教員の支援にあたれた。
- ・学びのツールとしての横浜スタンダード評価票と初等教育FW研究ハンドブックを活用できた。

## 今後の課題

### ◆「インターンシップ」の強化

- ・教員内定者のよりスムーズな採用への移行・・・多くの学生は教育実習以降、採用まで授業見たり実践したりする経験がない。
- ・SVの活用による若手教員の授業力向上へのより積極的な関与が必要である。